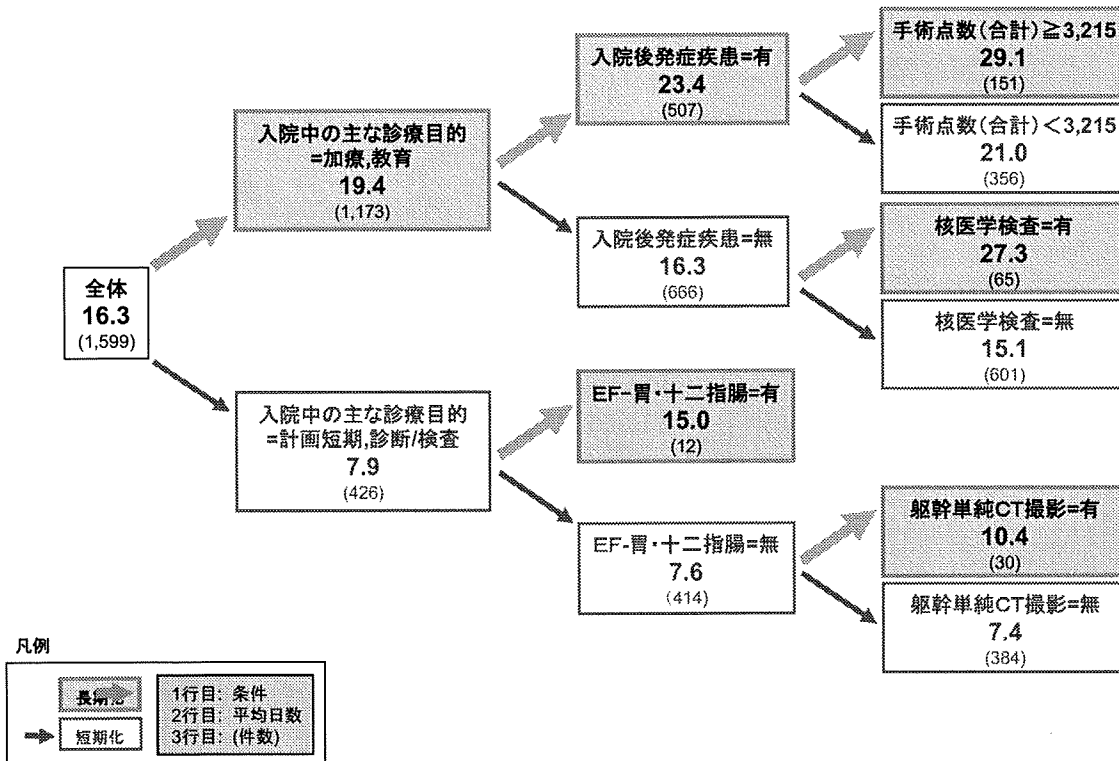


DPC6=110280 慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 在院日数回帰木分析

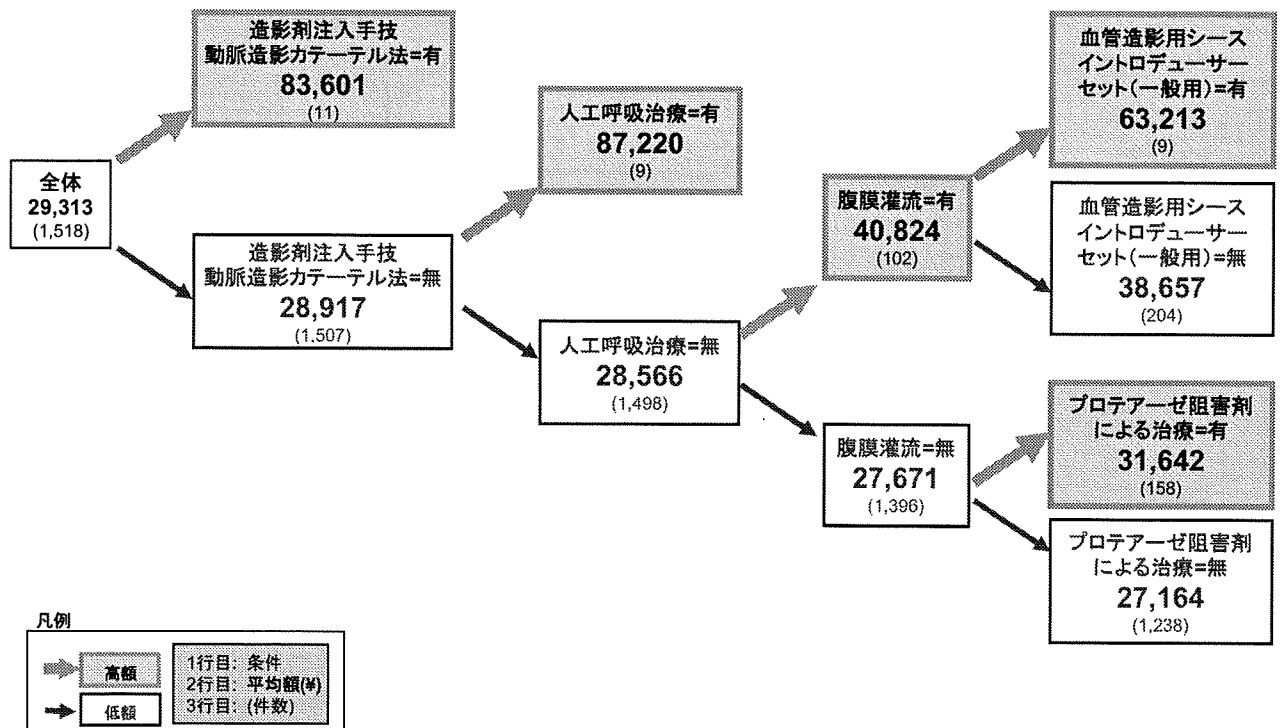


DPC6=110280 慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 在院日数回帰木分析

在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 入院中の主な診療目的 = 加療, 教育
- 入院後発症疾患 = 有
- EF-胃・十二指腸 = 有
- 手術点数(合計) ≥ 3,215
- 核医学検査 = 有
- 躯幹単純CT撮影 = 有



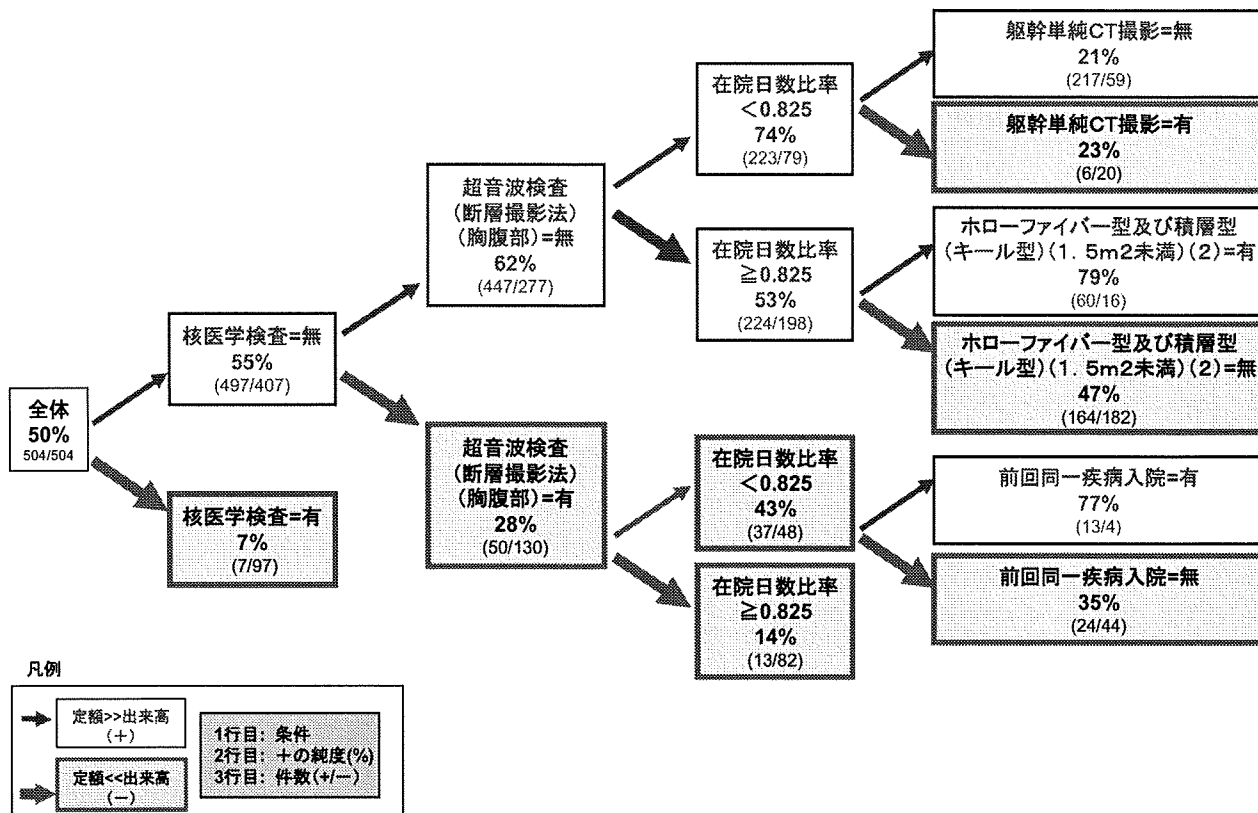
出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 造影剤注入手技動脈造影カテーテル法=有
- 人工呼吸治療=有
- 腹膜灌流=有
- 血管造影用シースイントロデューサーセット(一般用)=有
- プロテアーゼ阻害剤による治療=有

(*) 退院時転帰

- 1 : 治癒
- 2 : 軽快
- 3 : 寛解
- 4 : 不変
- 5 : 増悪
- 6 : 死亡
- 7 : その他死亡
- 9 : その他



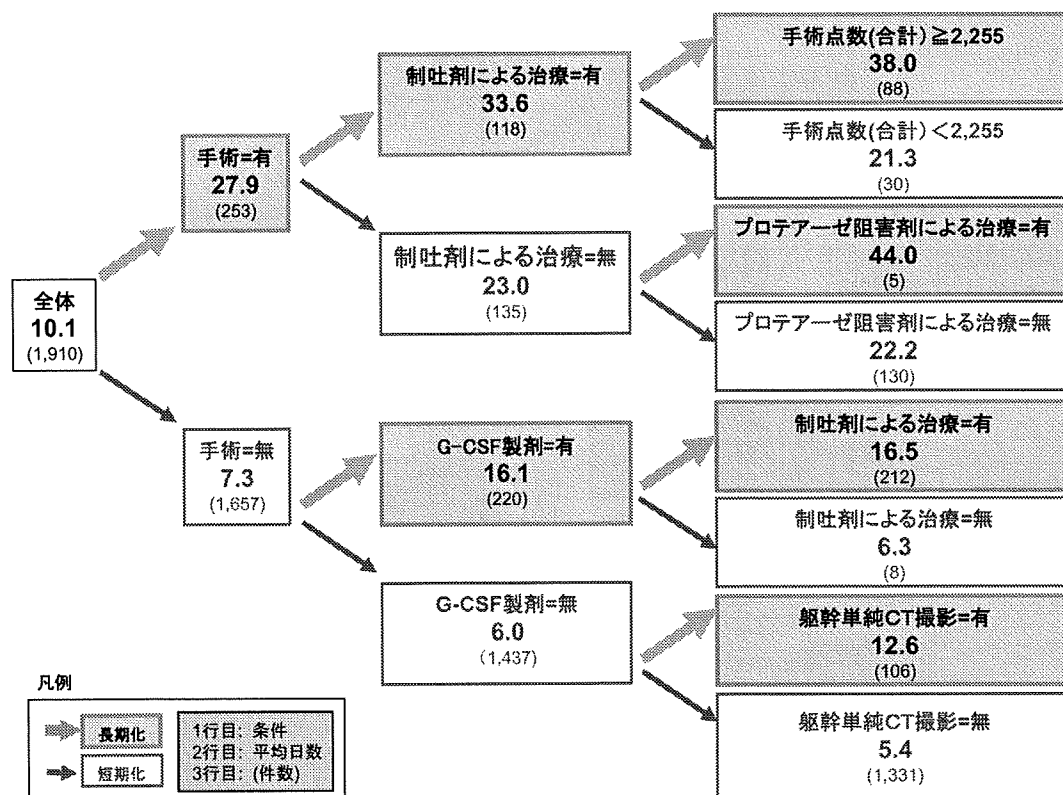
定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 核医学検査=有
- 超音波検査 (断層撮影法) (胸腹部)=有
- 在院日数比率 ≥ 0.825
- 躯幹単純CT撮影=有

DPC6=120010 卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍

DPC6=120010 卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 在院日数回帰木分析



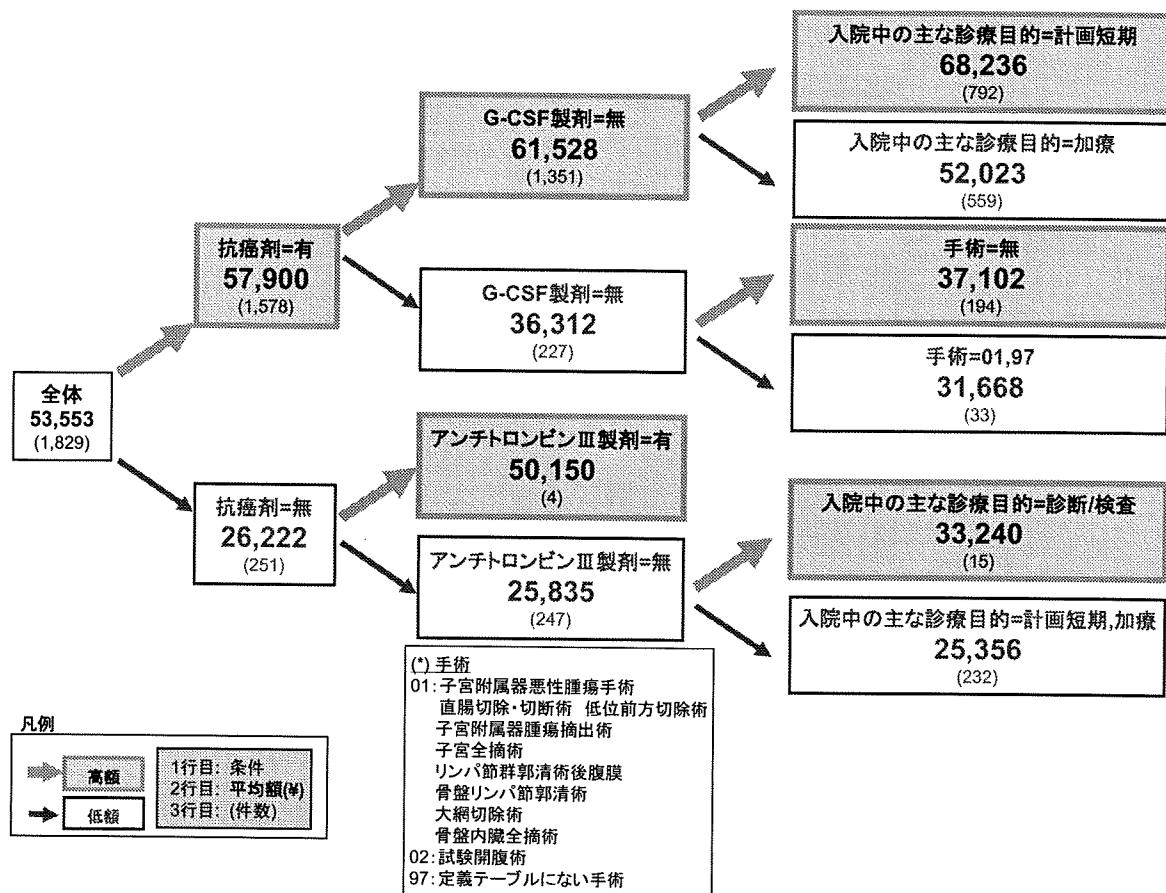
DPC6=120010 卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 在院日数回帰木分析

在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 手術=有
- 制吐剤による治療=有
- G-CSF製剤=有
- 手術点数(合計) ≥ 2,255
- プロテアーゼ阻害剤による治療=有
- 躯幹単純CT撮影=有

DPC6=120010 卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 出来高換算額/日 回帰木分析



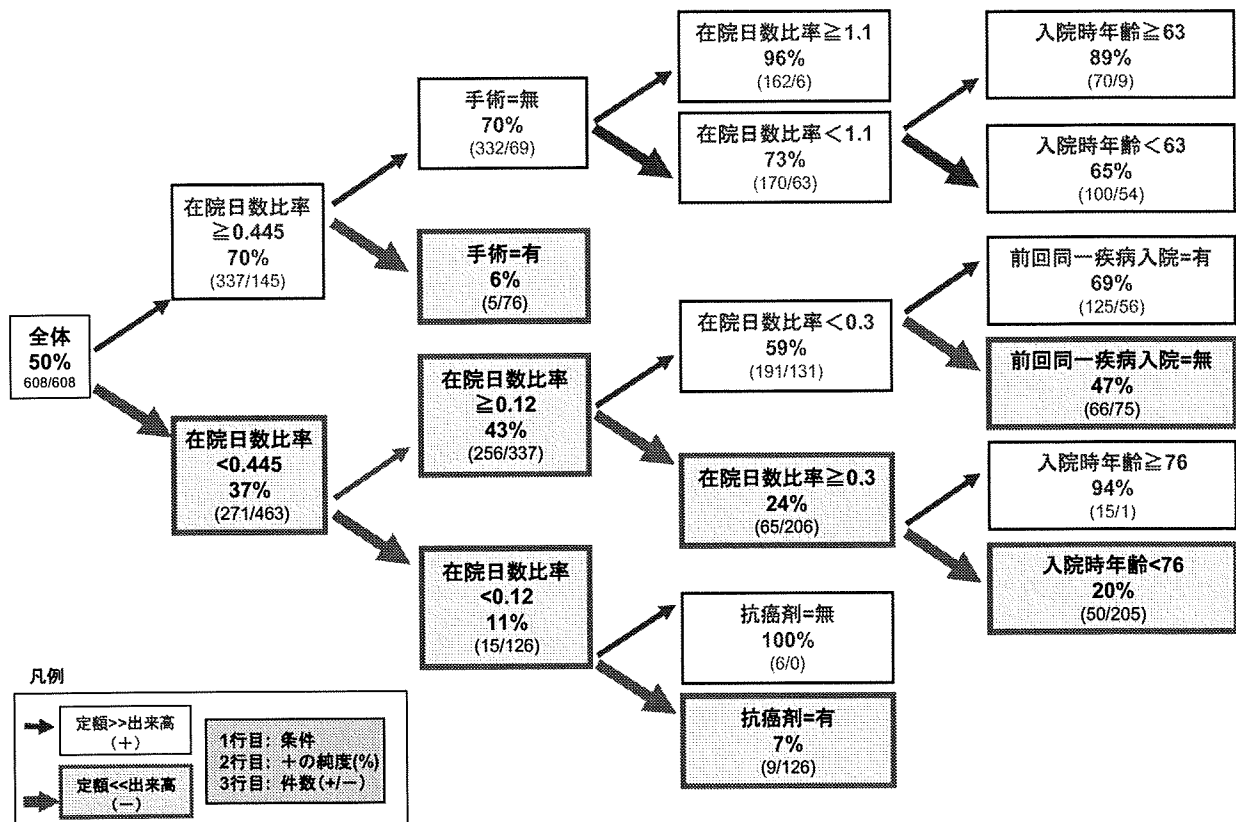
DPC6=120010 卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 抗癌剤=有
- G-CSF製剤=無
- アンチトロンピンⅢ製剤=有
- 手術=無

DPC6=120010 卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 定額 vs 出来高



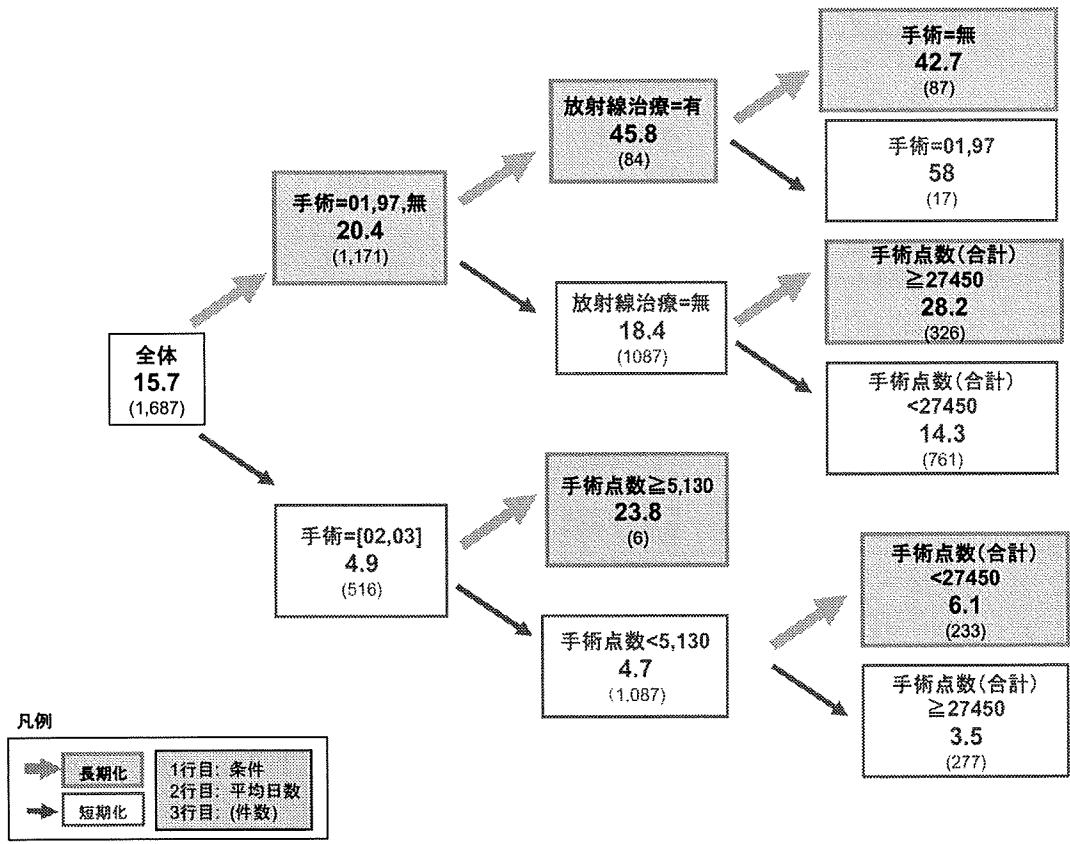
DPC6=120010 卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 定額 vs 出来高

定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に定額が出来高を下回る傾向がある。

- 手術=有
- 在院日数比率 <0.12
- 抗癌剤=有
- 入院時年齢 <76

DPC6=120020 子宮頸・体部の悪性腫瘍



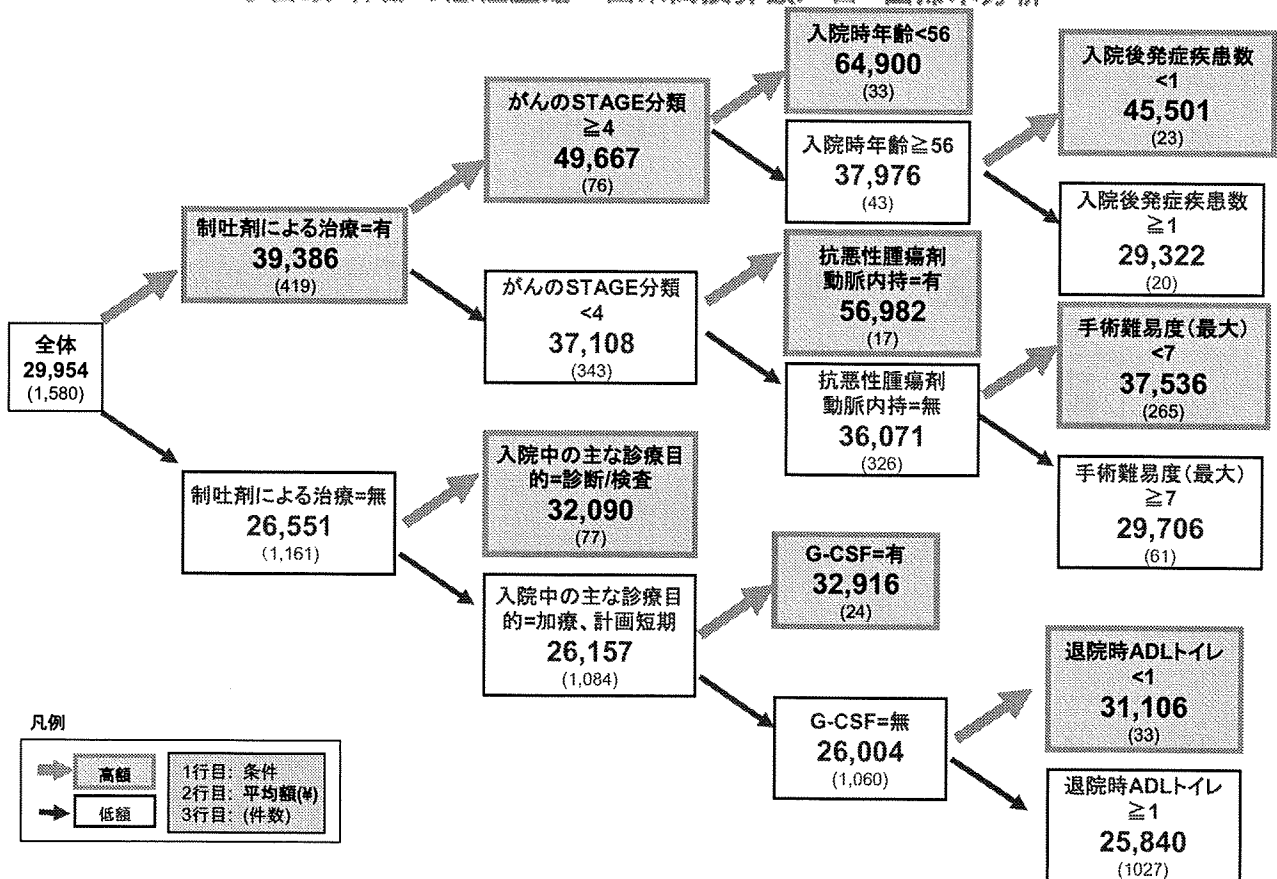
在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

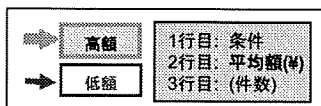
- 手術=01,97,無
- 放射線治療=有
- 手術点数 ≥5130

- (*) 手術
- 01: 骨盤内臓全摘術
骨盤リンパ節郭清術
リンパ節群郭清術後腹膜
 - 02: 子宮頸部切除術
子宮筋腫核出術腔式
 - 03: 試験開腹術
クレンジ手術
子宮内臓掻爬術
 - 97: その他手術

DPC6=120020 子宮頸・体部の悪性腫瘍 出来高換算額/日 回帰木分析



凡例



DPC6=120020 子宮頸・体部の悪性腫瘍 出来高換算額/日 回帰木分析

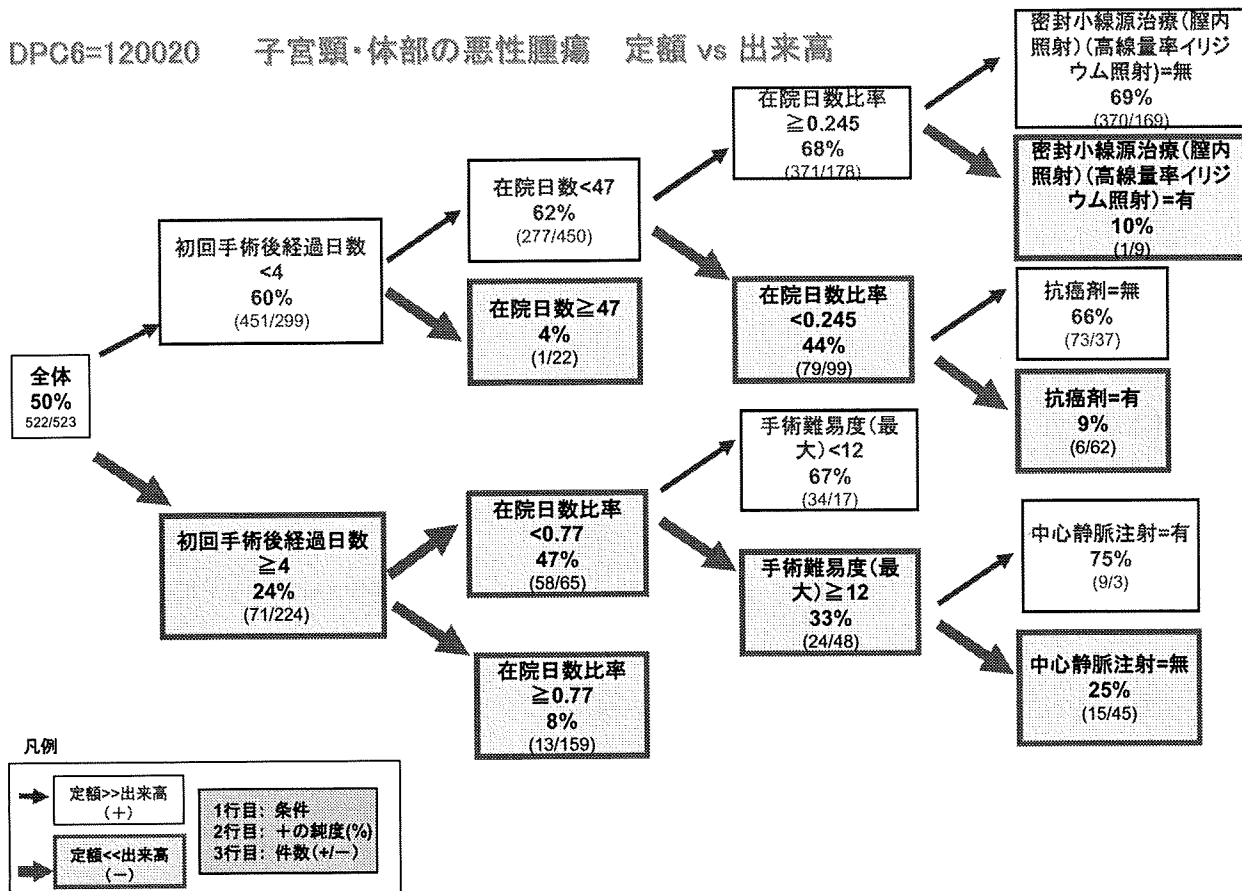
出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 制吐剤による治療=有
- がんのSTAGE分類 ≥4
- 入院中の主な診療目的=診断/検査
- 入院時年齢 <56
- 抗悪性腫瘍剤動脈内持=有
- G-CSF=有
- 入院後発症疾患数 <1
- 手術難易度(最大) <7
- 退院時ADLTイレ <1

(*) ADLTイレ
0: 全介助
1: 一部介助
2: 自立
9: 不明

DPC6=120020 子宮頸・体部の悪性腫瘍 定額 vs 出来高



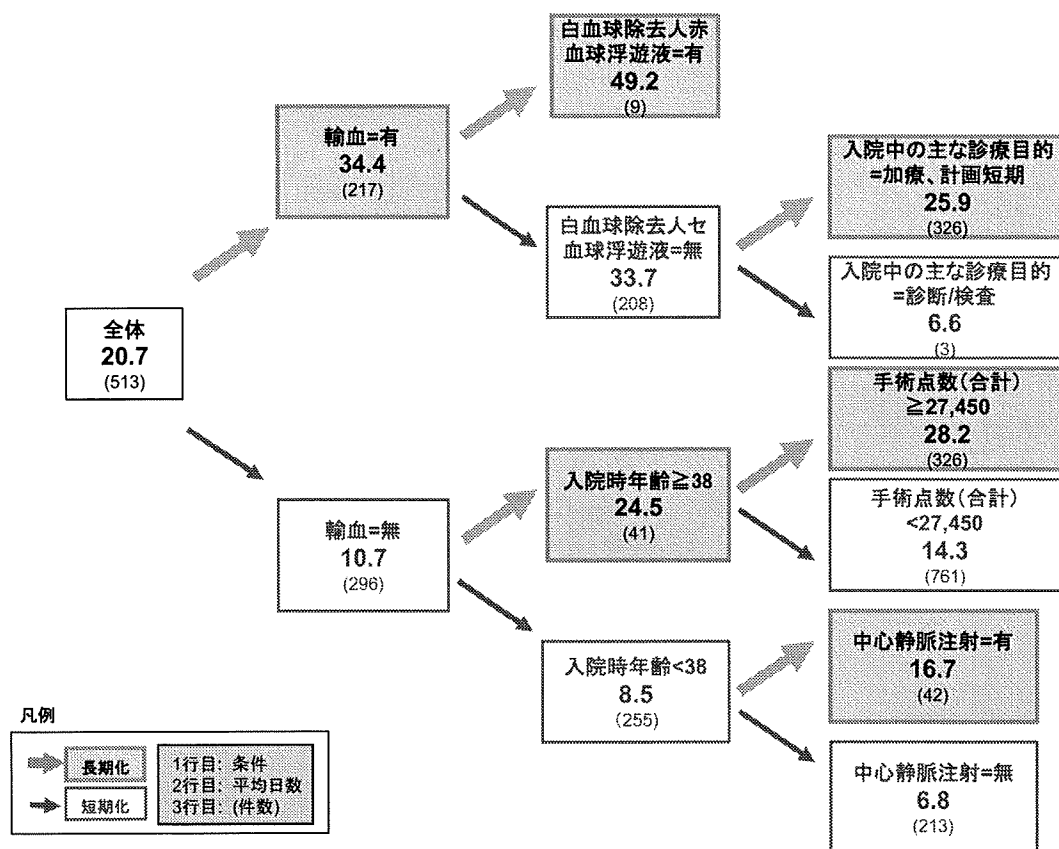
DPC6=120020 子宮頸・体部の悪性腫瘍 定額 vs 出来高

定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 初回手術後経過日数 ≥4
- 在院日数 ≥47
- 在院日数比率 ≥0.77
- 密封小線源治療(腔内照射)(高線量率イリジウム照射)=有
- 抗癌剤=有
- 中心静脈注射=無

DPC6=130010 急性白血病

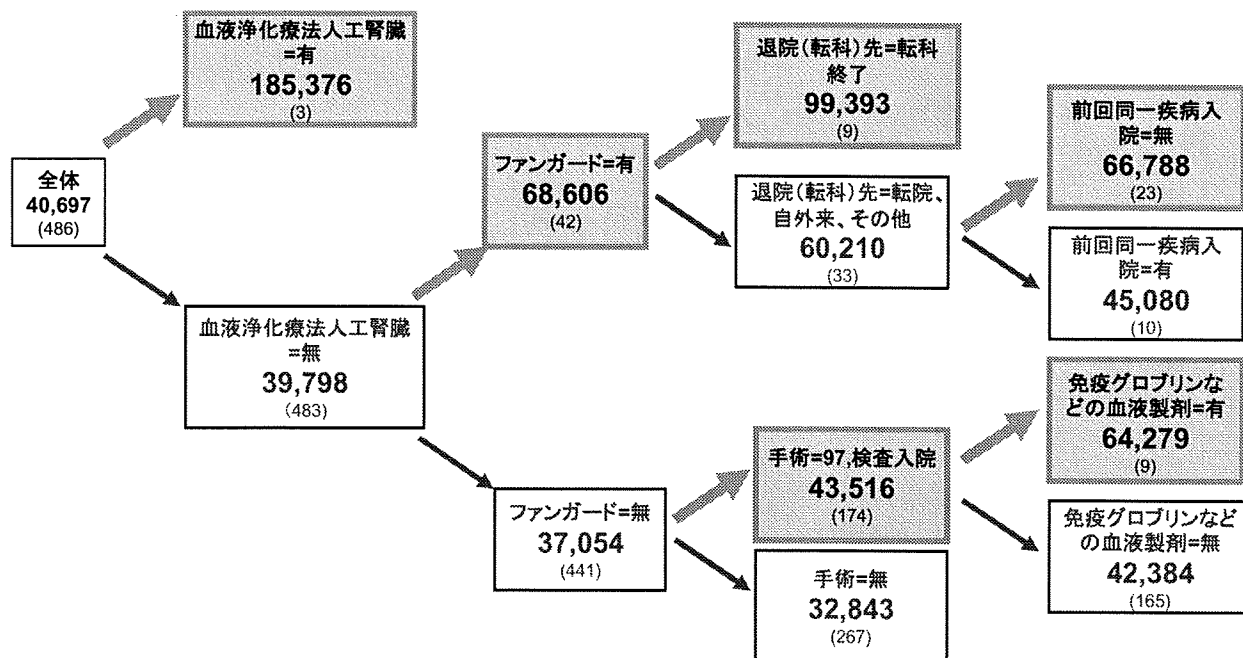


在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

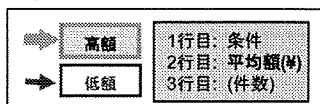
以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 輸血=有
- 白血球除去人赤血球浮遊液=有
- 入院時年齢≥38
- 入院中の主な診療目的=加療、計画短期
- 手術点数(合計) ≥27450
- 中心静脈注射=有

DPC6=130010 急性白血病 出来高換算額/日 回帰木分析



凡例

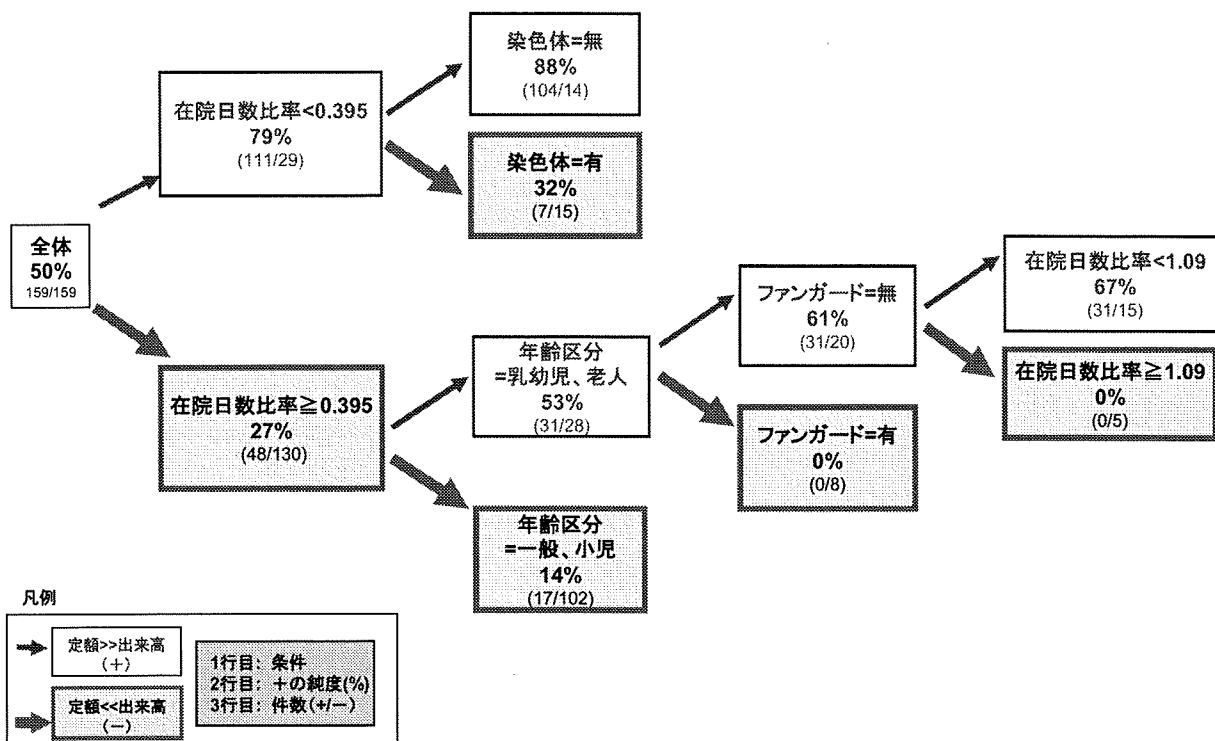


DPC6=130010 急性白血病 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 血液浄化療法人工腎臓=有
- ファンガード=有
- 退院(転科)先=転科 終了
- 手術=97,検査入院
- 抗悪性腫瘍剤動脈内持=有
- 前回同一疾病入院=無
- 免疫グロブリンなどの血液製剤=有

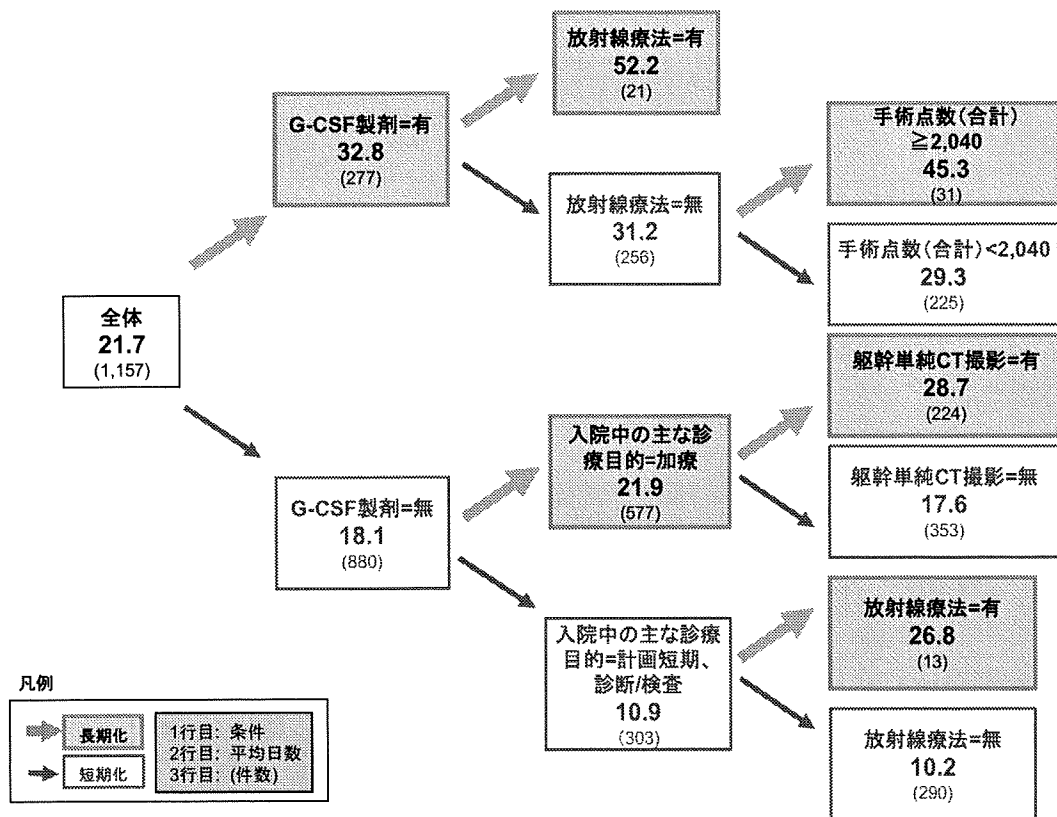


定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 在院日数比率≥0.395
- 年齢区分=一般、小児
- ファンガード=有

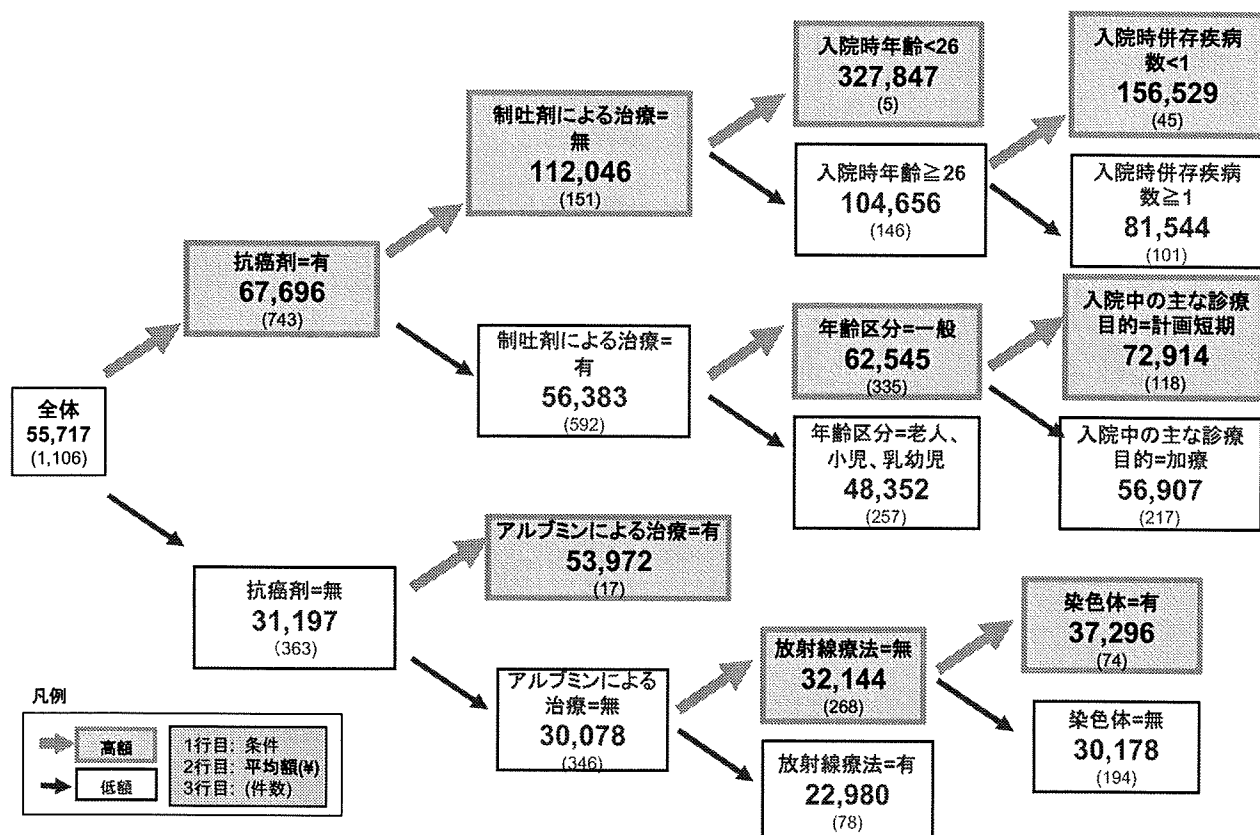
DPC6=130030 非ホジキンリンパ腫



在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- G-CSF製剤=有
- 放射線療法=有
- 入院中の主な診療目的=加療
- 手術点数(合計) ≥2,040
- 躯幹単純CT撮影=有

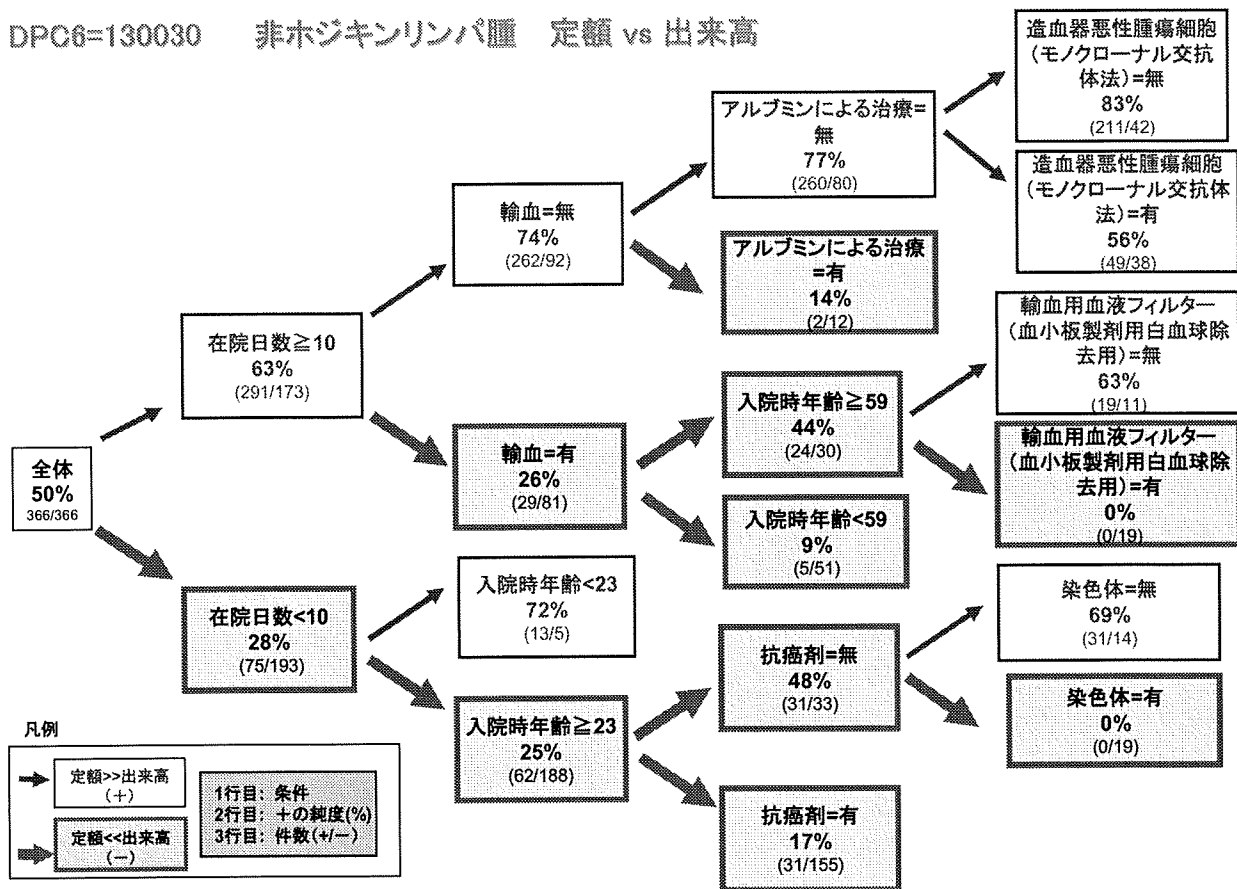


出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 抗癌剤=有
- 制吐剤による治療=無
- アルブミンによる治療=有
- 入院時年齢<26
- 年齢区分=一般
- 放射線療法=無
- 入院時併存疾病数<1
- 入院中の主な診察目的=計画短期
- 染色体=有

DPC6=130030 非ホジキンリンパ腫 定額 vs 出来高



DPC6=130030 非ホジキンリンパ腫 定額 vs 出来高

定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 在院日数 < 10
- 輸血 = 有
- 入院時年齢 ≥ 23
- アルブミンによる治療 = 有
- 入院時年齢 < 59
- 抗癌剤 = 有
- 輸血用血液フィルター(血小板製剤用白血球除去用) = 有
- 染色体 = 有

DPC6=140030 周産期に発生した新生児の障害